

第7回段丘林プロジェクト会議（会議録）

■開催日 平成30年9月14日（金）16:00~17:00

■場 所 役場3階 中会議室

■決定事項 ①町長へのプレゼン
段丘林ビジョンと課題解決策の提案
②徳島県上勝町への視察

■記 録 1) 高森町の段丘林を考えるワークショップ

★ワークショップの中で出た意見や要望を段丘林ビジョンに反映する。

- ・山林所有者の参加がなかったので山林所有者から話を聞いた方がよい。
- ・アンケートの実施、山林所有者の中から抽出して話をする場を設ける。
→思うような成果は得られない可能性が高いためヒアリングした方がよい。
→まちづくり懇談会で実施できないか。※総務課長確認

2) 町長へのプレゼン

★段丘林ビジョンと課題解決策の提案を行う。ただし、検討する中で必要があれば追加提案する。（モデル的景観整備…等）

- ・今後はビジョンを修正と伴に課題解決の検討を行う。
→課題は竹以外にもある。課題の洗い出しとそれぞれの解決策を検討。提案はひとつでなくまとまっただけ提案する。
- ・ビジョンに対してどのように整備を進めるか。プロジェクトで考えるビジョンは広く示してよいのでは。（町長にも提案）
- ・町が段丘林を所有して整備を進める。（町長）
→町が進める整備事業になるとすべて町がやることになってしまうのでは。町長にそのような考えがあるのであればそれは最終手段とし、町民の意識改革を図れるような解決策を検討し提案する。
- ・モデル的景観整備個所の提案は町がやる事業とならないような検討が必要。
- ・予算要求はハードではなくソフトでもよいのでは。
- ・今回行った竹を使ったイベントは大変好評だった。今後も竹を使ったイベントを計画して竹の活用に繋げてみては。（竹フェス、竹ディスカッション…等）
- ・すでに地域で取り組んでいる竹林整備事業もある。地域の取り組み等を事例として紹介してみては。（大島山…等）

3) 視察研修

- ・研修先は徳島県上勝町。高齢者が行うつま産業と広葉樹林化をどのように進めているか勉強する。

- ・時期は 10 月下旬から 11 月上旬の紅葉の時期とし、日にちの決定はラインで調整する。



世界が目にする上勝町のビジネス

「葉っぱビジネス」とは「つまもの」、つまり日本料理を美しく彩る季節の葉や花、山菜などを、栽培・出荷・販売する農業ビジネスのことです。当時農協職員だった横石知二（現・株式会社いろどり代表取締役社長）が、「彩（いろどり）」と名づけて1986年にスタートしました。現在つまもの種類は320以上あり、一年を通して様々な葉っぱを出荷しています。

葉っぱビジネスのポイントは、商品が軽量で綺麗であり、女性や高齢者でも取り組めることです。現在の年商は2億6000万円。中には、年収1000万円を稼ぐおばあちゃんもいます。それを支えるのはパソコンやタブレット端末で見る「上勝情報ネットワーク」からの情報です。決まった数量を毎日出荷するものではありません。おばあちゃん達はパソコンやタブレット端末を駆使し、「上勝情報ネットワーク」から入る全国の市場情報を分析して自らマーケティングを行い、栽培した葉っぱを全国に出荷するのです。「上勝情報ネットワーク」では自分が町彩部会で何番目の売上を上げているかの順位が分かるようになっているなど、農家さんのやる気を出させる“ツボ”をついた情報を提供しています。弊社は「上勝情報ネットワーク」を通じた農家への情報発信を行っています。

